

9月6日(木) 研究発表1 第6室(9521)

分野: Others (児童英語教育)

公立小学生におけるアルファベット指導とその効果について
How to develop alphabetical knowledge and what to expect from elementary school children

アレン玉井光江(千葉大学)

I. アルファベット指導

公立小学校へ英語活動が導入され5年がすぎ、英語活動を導入した学校は全体の93.6%まで増えてきている(2005年)。実施時間、および授業内容に関しては千差万別で学校間の格差が浮上してきた。さらに小学校と中学校教育の連携は大きな教育課題であり、英語に関してもその問題に直面している小学校・中学校が多く存在する。

本発表においては平成18年度に発表者が直接指導を行った公立小学校におけるリテラシー指導のうち、最重要課題であったアルファベットの指導を中心にその方法と効果について報告する。アルファベット指導に力を注いだのはリテラシー活動の最も基礎であり、第一言語習得研究からもリーディング能力の発達に最も大きく影響する要因としてアルファベット認識とPhonemic awareness(音素認識能力)が報告されているからである(Ehri, Nune, Willows, Schuster, Yaghoub-Zadeh, & Shanahan, 2001)。さらに、英語圏で育つ子どもたちはアルファベットを習得するときに文字を視覚的に学習しているだけではなく、Phonemic awarenessも伸ばしている(Treiman, Tincoff, & Richmond-Weltry, 1997)という報告もある。

本研究においては小・中連携を視野にいれ、小学校でできる英語のリテラシー指導について、アルファベット認識と音韻認識能力の発達という観点からデータを収集し、分析した結果を発表する。

II. 研究目的

- ① 小学校高学年(5, 6年生)のアルファベット知識の発達を探る。
- ② 音素認識能力を測定する。
- ③ アルファベット知識の発達と音素認識能力の関連性を探る。

III. 研究方法

参加者は特別区として英語教育に取り組んでいる東京のA公立小学校に通う5年生、6年生の合計37名である。当該参加者は2006年7月に1度目のアルファベット認識テスト(大文字)、音韻認識テストを受け、2007年3月に同様のテストに加えて小文字、および単語認識テストを受けている。

① アルファベットテスト

テストはおおきく4つのパートに分かれている。

- | | |
|------------------------------|--------|
| (A) アルファベット1文字ずつの単位での聞き取りテスト | (25項目) |
| (B) アルファベット2, 3文字単位での聞き取りテスト | (11項目) |
| (C) アルファベットの書きテスト | (14項目) |

分野: Others (児童英語教育)

(D) 絵を使った単語認識テスト

(6項目)

② 音素認識力測定テスト

テストは **Open Oddity Test** と **End Oddity Test (Kirtley, Bryant, MacLean, & Bradley, 1989)** という 2 種類のテストを用意した。

(A) 3つの単語のうち最初の音(もしくは音のつながり)が違うことばを選択する。具体的には次のような3つのセクションに分け、それぞれ8つの項目を用意した。

条件1	doll, deaf,	can	頭子音、母音、最後の子音全て違う
条件2	cap, can,	cot	頭子音は同じ、母音、最後の子音が違う
条件3	can, cap	lad	母音が同じ、頭子音、最後の子音が違う

(B) 3つの単語のうち最後の音(もしくは音のつながり)が違うことばを選択する。具体的には次のような3つのセクションに分け、それぞれ8つの項目を用意した。

条件1	mop, whip	lead	頭子音、母音、最後の子音全て違う
条件2	lip, tip	hop	最後の子音は同じ、頭子音と母音が違う
条件3	hid, lid	tip	母音が同じ、頭子音、最後の子音が違う

アルファベット指導

- ① アルファベットの視覚的情報を強調した指導法
- ② アルファベットの聴覚的情報を強調した指導法
- ③ アルファベット指導から **Phonemic awareness** 指導へ

IV. 考察

アルファベット指導については、研究者の授業でアルファベットの音韻認識を育てる活動、学級担任の授業では視覚的な識別を中心にした活動を行った。この学校では1年から英語が導入されているという背景もあり、参加者のアルファベット認識力は高いものがあった。さらに、授業における音韻認識活動を通して音韻に関する気づきが育ち、それが単語認識力の向上に寄与したのではないかと思われた。発表時にはポストテストの結果を踏まえ統計的な見解を含め詳しく報告する。

また、他の研究(JACET44回、45回全国大会発表)でも明らかになったように、アルファベットの「書く」能力がある参加者は単語認識が優れていることが再確認された。

参考文献

- Ehri, L. c., Nune, S. R, Willows, D. M., Schuster, B. V., Yaghouh-Zadeh, Z., & Shanahan, T. (2001) Phonemic awareness instruction helps children learn to read: Evidence from the national Reading Panel's meta-analysis. *Reading Research Quarterly*, 36,3, 250-287
- Kirtley, C., Bryant, P, Maclean, M. & Bradley, L. (1989). Rhyme, rime, and the onset of reading. *Journal of Experimental Child Psychology* 48, 224-245
- Treiman, B., Tincoff, R., & Richmond-Welty, E. D. (1997) Beyond zebra: Preschoolers' knowledge about letters. *Applied Psycholinguistics* 18, 391-409